

# 時間依存インヴァージョン解析により推定された余効滑り分布

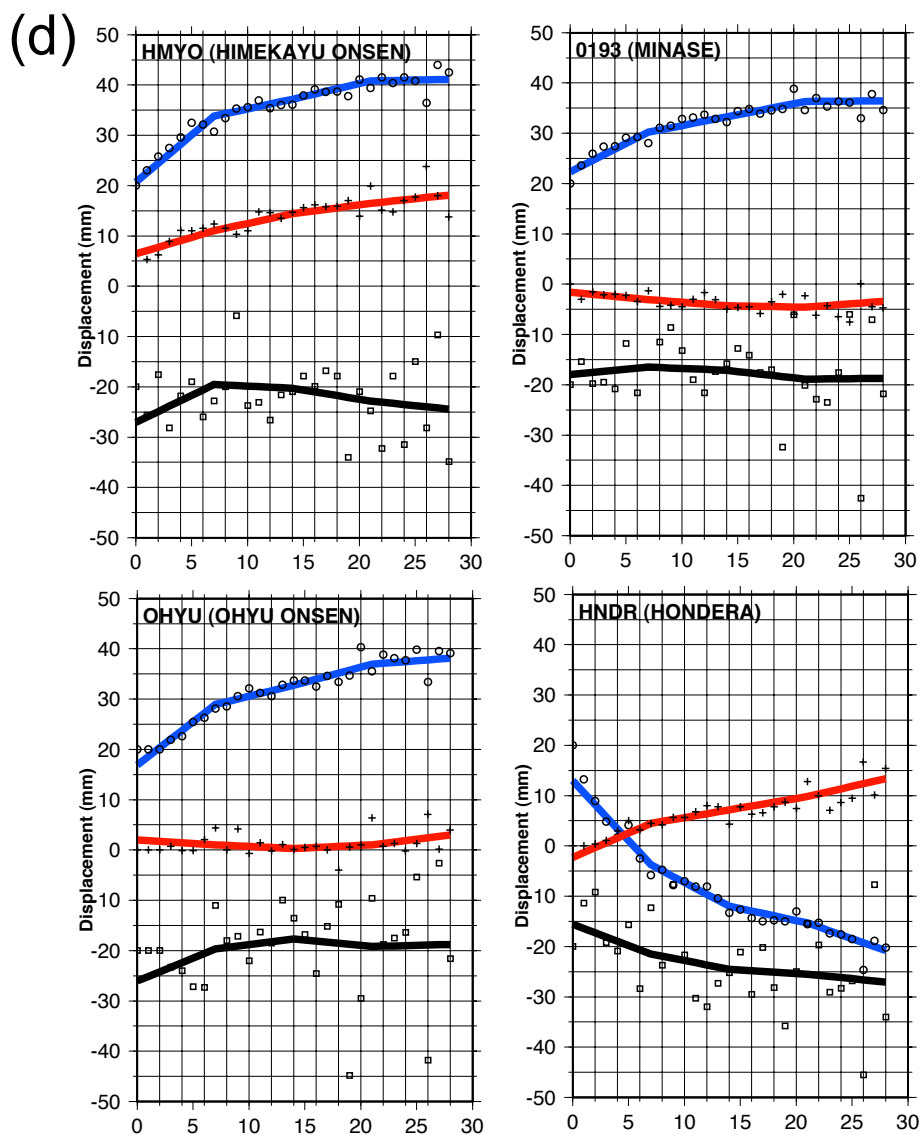


図15(つづき) (d) GPS大学連合による臨時観測点, GEONET観測点, および原子力安全基盤機構(JNES)観測点における宮城・岩手内陸地震以降の局位置変化と, 推定された余効滑り分布から計算された変位. 上から東(青・白丸), 北(赤・十字), 上(黒・四角)方向の変位を示す. 横軸は2008年6月14日からの日数. (e) 推定された変位速度(白矢印)と観測値(黒矢印)の比較. (d)で示した観測点を図中の4文字のコードで示す.

謝辞: 本研究では国土地理院GEONET観測点・国立天文台水沢VERA観測所のGPSデータを使用しました. また原子力安全基盤機構(JNES)が平成19年度, 20年度に実施した内陸の活断層調査に基づく震源断層評価手法の検討事業で取得されたGPSデータを使用しました. 記して感謝致します.

